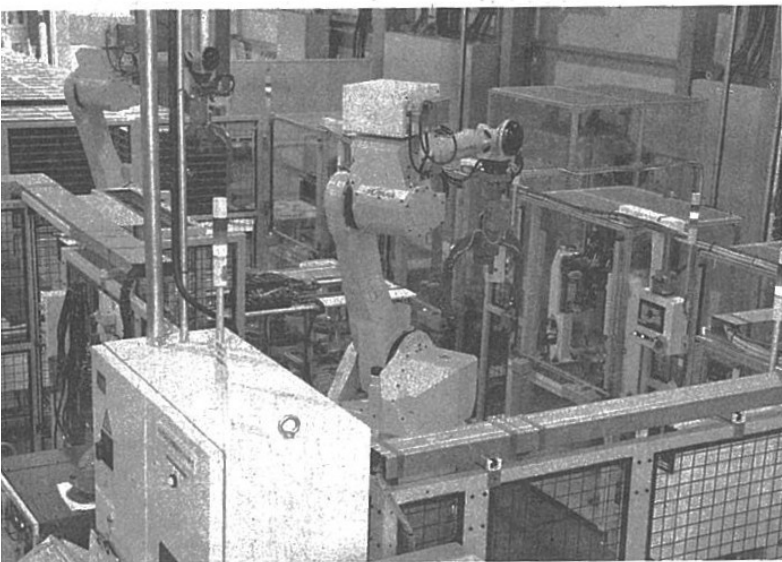


# EV、HV用開発加速

自動車などのエンジンを始動する際に欠かせない歯車形の部品「リングギア」製造で世界シェア（占有率）トップを誇る自動車部品メーカーだ。

鋼の線材を圧延して曲げる独自の金属リング製造技術「ベンダ工法」を確立。鉄板からプレス機で打ち抜く一般的な工法と違って端材が出ないので材料ロスが少ない。生産工程でど



HV向けの製品を作る工場

## ベンダ工業

広島県呉市

## 自動車部品

けロスが少ないかを見る「歩留まり率」は95%以上で、これにより低コストを実現させた。県内4工場と中国、韓国、タイに

拠点を置くグループ会社の工場で一貫生産して各国の自動車メーカーに提供。世界シェアは推定2割強で、ガソリン車の製造に貢献してきた。

だが近年、電気自動車（EV）への移行が本格化し、大転換期を迎えている。EVでは、エンジンそのものが不要で、リング

ギアの販売減は避けられない。

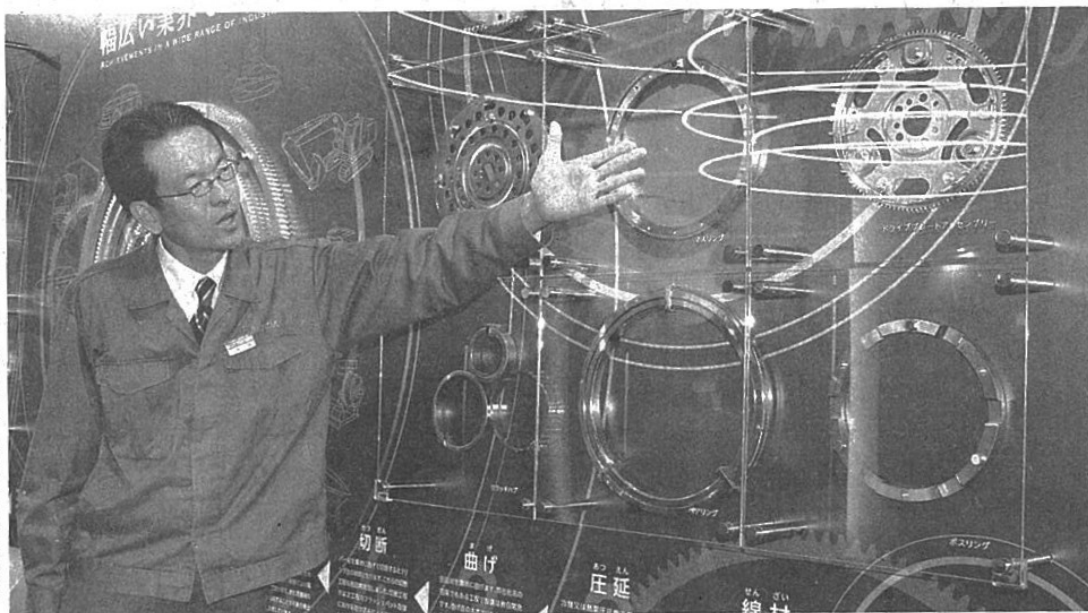
そこで、本社敷地内に技術研究所「ベンダグローバルテクニカルセンター」を2021年12月に設置。EVやハイブリッド車（HV）向けの製品の研究・開発を進め、脱ガソリン車の流れに対応している。

今年4月には、HVの走行時にモーターからエンジンに動力を切り替えるための部品「マスリング」を量産し、出荷を開始した。アジア圏などではガソリン車がメインであることから、八代一成社長（54）は、「リングギアの製造を進めながら、HV、EVに注力する」と話す。

EV移行に対応するため、今年9月、EV車用インバーター部品を供給する茨城県の企業と株式譲渡契約を締結。「ベンダグループ」としてEV製品の開発にも乗り出した。

ほかにも、産業用ロボットや洋上風力発電施設など、自動車部品以外へ新規事業の領域拡大を模索するため、研究を重ねるといい、八代社長は「グループ一丸となって、『ワンベンダ』で転換期に挑戦し、持続的成長を目指す」と力を込める。

ベンダ工法について説明する八代社長（広島県呉市で）



てやる」との思いから、英語の「bend」（曲げる）に由来する。同県東広島市にも3工場を構える。資本金5850万円。2022年3月期の連結売上高は124億6000万円。

【概要】1964年9月、広島県呉市で、祖父・八代一芳氏が創業。ダムや橋、トンネルなどに使う鋼材加工を担い、高度経済成長期の日本のインフラを支えた。社名は、「全ての鉄を曲げ

（呉支局 宮山颯太）